

Fly High, Together!



思いやりの意味～道徳「軽いやさしさ」～

先週の道徳は、小説家・エッセイストである落合恵子さんの体験談である「軽いやさしさ」というお話を読んで、思いやりの意味について考えました。

筆者の家の近くにある菓子屋の老婦人は、ネコと二人暮らし。散歩の途中でその店を知って以来、なんとなく気になって、三日に一度は通うようになっていた。何度か訪れるうち、店にやってくる若者たちの姿に気がつく。「おばあちゃん、元気？」と入れ替わり立ち替わり顔を見せる。彼らは近くに住む学生達で、彼女の店を鼻屑にしていた。「別に理由なんかないけどさ、なんとなく気になるってあるでしょ？」とある若者は自分の言葉に照れたように頭を掻いた。あるとき、その彼が老婦人の店の番をしていた。老婦人は包帯をした足を投げ出して座っている。「捻挫をしてしまったんですよ。そうしたら、この人たちが交代で店番をするんだって…本当にわたしあ、幸せな…」と言いかけた老婦人を遮り、「暇つぶし、暇つぶしですよ。ここに座っていると、素敵なガールフレンドでも見つけられやしないかと思って。」とその青年は言うのであった。

子どもたちは、おばあさんに気を遣わせたり負担を掛けたりしないように行動したり発言したりする若者たちの姿から、思いやりの意味について自分なりに考えていました。授業の最後に、「心の送受信」という言葉を紹介しました。その中に、「相手に思いを届ける以上は、相手に受け止めてもらわなければ「おもいやり」は成り立たないことになる。だからといって、何も押しつけるわけではない。相手の心に伝わればよい。あたたかな思いが伝われば、その思いはまたあなたに戻ってくる。」と書かれています。相手の心に負担をかけないやさしさは、深い愛がなければ考えることができないものなのでしょう。

○「思いやり」というのは、単純にやさしくするというのではなく、相手の立場やその人のためになるかなどを考えたり、相手に気を遣わせたりしないということが大切だと思った。物語の中で、おばあさんを助けた若い人のような気遣いが増える人が増えるのもっとよくなるのではないかと思った。

○思いやりというのは良いことだけど、思いやろうと思ってすることじゃないんだろうと思いました。その場でとっさに、さりげなく相手のためになることができ思いやりと言うんだと考えました。これから、このような思いやりができるようになりたいです。

○自分の思いやりが本当に思いやりだったかどうかは自信がないけど、多分できていると思う。お互いに伝えるのは難しいけれど、多分心から思っていれば伝わるのだと思う。思いやりの意味なんて考えもしなかったけど、考えているととても深いなと思った。

後期教育実習が終わりました



3週間に渡って行われていた教育実習が、先週金曜日に終了しました。水曜日と木曜日に査定授業が行われ、教育実習生とよい授業をつくっていかうという子どもたちの意欲的な姿がたくさん見られました。各クラスで行われたお別れ会では、恒例のフルーツバスケットをしたり、歌を披露したり、色紙を渡したりと、実習生への感謝の気持ちを伝えることができました。教員になるという夢の実現のために、授業づくりに必死に取り組む実習生の姿は、子どもたちには輝いて見えたのではないのでしょうか。

子どもたちにとって、この教育実習が、自分の将来について真剣に考えるきっかけとなればよいと思います。